

令和6年9月11日(水)
全校集会

トライ＆ラーン ーさらなる挑戦に向けてー

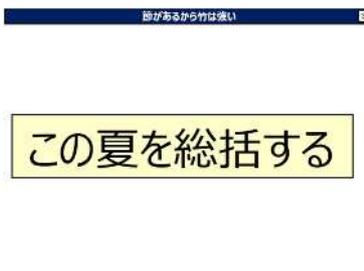
校長 下村 昌弘



- 全校の皆さんおはようございます。校長の下村です。今日は9.11。皆さんが生まれる前の2001年9月11日にアメリカ同時多発テロ事件があった日です。ロシアによるウクライナ軍事侵攻が続いています。イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘も続いています。
- こうした中、私たちが直接何かをすることはできません。しかし、世界の情勢を頭の中に入れたうえで、私たちは私たちのできることに専念しましょう。
- 季節は進みました今は白露と呼ばれる季節になりました。



- まずは武陵祭、お疲れ様でした。全員がそれぞれの立場で一生懸命取り組んだいい学校祭でした。繰り返すようですが、学校祭は探究活動の際たる場です。内容的なものもそうですが、仲間と協働して進めていくうえで知恵を出し合ったり、理不尽な状況にぶち当たったりしたこともあったのではないのでしょうか。
- その中で、解決できたことも、解決できなかったこともあったでしょう。そうした全ての経験があなたを作り上げます。そこで学んだことを生かす、あるいは同じ轍は踏まない、いずれにしても、2学期もトライ＆エラー、そしてその先にあるラーンを積み重ねてほしいと思っています。



- では、始業式で十分話せなかったので、もう少しさかのぼって、今年の夏を総括してみたいと思います。7月後半、8月、をちょっと振り返ってみてください。
- 猛暑でしたね。それぞれの皆さんがそれぞれの夏を過ごしたわけです。少なくとも去年とは大きく違った夏だったのではないのでしょうか。



- スライドには、色々な項目をあげています。一とおりに見ながら自分で思い越してみてください。
- 3年生の皆さんにとって一番の比重は受験勉強ですね。夏休み、受験勉強、はかどりましたか。計画どおりやれましたか。作業ではなく、思考ができましたか。やらされるのではなく、主体的に取り組むことが受験の鉄則です。
- 「受け身の100発より、やる気の1発」と1学期の終業式で進路指導部の原口先生は仰いました。
- 夏の成果はこれからじわじわ出てきます。また今日から新しい気持ちで頑張りましょう。気持ちをリセットして再スタートです。
- 1、2年生の皆さん、勉強、部活、大会補助員などいろいろありますが、7月、8月は探究活動、進みましたか。フィールドワークできましたか。そのことをとおしていろいろな気づきがあったのではないのでしょうか。
- 世の中は一つの教科でできているのではありません。一つの教科の勉強で閉じてしまうから教科の面白みが半減します。教科書のその内容は社会のどことどう関係があるのか、あるいは逆に実社会の現象を見つめながら、それって教科書のどこに該当するのかを想像してみるということです。文化祭で理系桃太郎が上演されましたが、あれが象徴的な例ですね。
- そうすることで、勉強はやらされるものから自分が主体的にかかわるべきものになっていきます。冒頭 9.11 の話をしましたが、これもひとつの事件として終わらずに、歴史や思想や科学といった問題とつなげていくと深い学びになっていきます。



- 話を進めます。今年の夏は、スポーツ花盛りでした。
- まず、身近なところでは、全国インターハイが北部九州総体として開催されました。本校では特に少林寺拳法部、弓道部の活躍が光りました。
- 少林寺拳法部は、男子団体、女子団体、男子単独、女子組手の4部門で全国2位でし

た。けがや疲労に悩まされたようですが、心ひとつに気迫のこもった演武を披露してくれました。

- 一方、弓道部の活躍も素晴らしいものがありました。女子団体が堂々の3位でした。3位決定戦では全員が自分の持ち矢をすべての的中させ、まるでドラマのような感動的な幕切れでした。結果として3位でしたが、皆さんには優勝する資格があったと思います。その証拠に大会で1校にしか選ばれない射技優秀校に選ばれました。
- また、放送部も NHK 杯放送コンテスト朗読部門で入賞。最後のブロックまで進んだと聞きました。素晴らしいことです。
- いずれにしても、武雄高校の新しい歴史が刻まれました。
- 補助員で大会を支えた皆さんもたいへんお疲れさまでした。全国レベルというホンモノを、間近で感じられたのではないのでしょうか。また、支える者と支えられる者が一体となって作り上げる取組の充実感を味わえたとしたら、それは成長の証だと思います。
- その他、各種の大会やコンクール、研修などに参加した皆さん、それぞれの学び、それぞれの気づきを大切にしてください。



- また、パリではオリンピックが開催されました。パラリンピックもありましたね。
- オリンピックでは、日本勢は体操やレスリングといったお家芸に加え、アーバンスポーツと呼ばれるスケートボード、ブレイキンなど幅広い競技で好成績を上げました。
- 海外選手と渡り合える10代の選手たち、若い力の台頭が印象的でした。



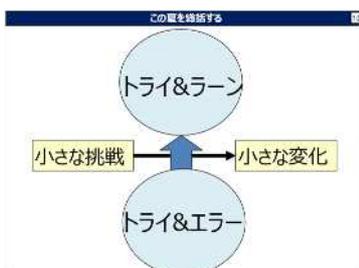
- ところで、若い力といえば、佐賀を雄藩へと導いた鍋島直正が藩主となったのは17歳でした。黒船が来る13年前。いち早く大砲の重要性を察知しました。
- 明治維新を先導した坂本龍馬は黒船が来た時17歳でした。
- 大隈重信は15歳。江藤新平19歳。副島種臣25歳。そしてわれらが山口尚芳14歳。
- 今、高度情報社会、Society5.0という現代の“黒船”が来ている状況だと言えます。今こそ若い皆さんの出番なのです。



- 2018年（平成30年）、今から6年前、明治維新150年を契機に佐賀で維新博（肥前さが幕末維新博）がありました。その時のキャッチフレーズは「日本は佐賀を見ていた。佐賀は世界を見ていた」でした。聞き覚えのある人もいないのでしょうか。
- 若い感性は素晴らしい跳躍力、新しいものを生み出す力を持っています。

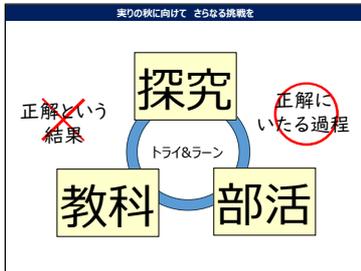


- 夏の甲子園がありました。
- 甲子園開場100年でした。
- 熱中症対策のため、試合途中にクーリングタイムがありました。朝と昼の2部制になりました。また、今、7回制の導入が検討されています。
- 100年の歴史がある競技でも、時代の流れの中でルールが見直されています。変わろうとしています。でもこれまでの流れを変えることは簡単なことではないでしょう。批判もあるでしょうから、それこそ英断が必要です。
- では、そろそろまとめましょう。
- 2学期は実りの秋です。



- この夏、武陵祭期間を含めて、色々なことに気づき、感じ、考えたことがあったはずです。そして平凡に見える毎日の中にも、小さな挑戦、小さな変化のあったはずです。

- 今日からの 2 学期にも、きっとたくさんの挑戦の機会があるでしょう。そこを逃さないようにトライしてください。結果エラーしてもいいんです。その先には必ずラーンがあります。
- 若い人には大きな跳躍力、トライする力がある。
- いわんや、武雄高校生においてをや、(抑揚形) です。



- 2 学期、今度は勉強に軸足をおいた生活のスタートです。
- これからの時代は「正解のない問いに答えなければならない時代だ」と言います。そこではイノベーション、創造力、新しいものを生み出す力が必要だと言います。だから「正解のある問いばかりを解いても意味がない」という意見さえあります。
- しかし、何もないところからはアイデアは生まれません。「正解のある問い」さえ解けない人が「正解のない問い」を解けるわけがありません。
- 要は、「正解」が大事なのではなく、そこにいたる考え方が大事なのです。「結果」ではなく、その「過程」が大事なのです。
- その意味において、各学年に応じて、教科の学習、部活動、探究活動、それぞれの実りに向けて、今日を一つの節目として、再スタートしてください。
- 2 学期、皆さんのさらなるトライ&ラーンを期待して、私からの激励とします。頑張ってください。